

杓掛けをした。

模様は釘彫りと掻き落しの手法で白生地を出した。焼成はSK9番、Aは還元焰、B、Cは酸化焰で焼成したが、試体は透光性よく細い釘彫りの線も少々太目で硝子と異つた軟かい感じで模様だけ白く透けて見える。

この手法の利用価値は更に追及を要する。

2.2.3 題目 S・K6〜7番の透明釉試験

寺 尾 作次郎

〔目的〕 龍門司の窯は火前でSK8番強であるが製品の詰め方によつては火度に不均一を来し押への根にある器物の釉は半熔融になることが多いので、従来は半熔融であつても商品価値としてそれ程影響のない『葉の煎じ茶家』を焼成していたが、窯の効率を上げるため巾のある安定した釉を希望されたので試験をした。

番 号	1	2	3	4
配合品名				
指宿 バラ土	30			
松 木 灰	45			
ワ ラ 灰	25			
福 島 長 石		45	42	30
埴 石		27	27	18
石 灰 石		10	18	25
埴 目		18	13	
ロ ー 石				27
酸 化 焼 成	SK.7	全	全	全

〔焼成結果〕

- No. 1 灰青色で落ちついた釉光を呈し、ロクロ目のある白生地物に最適
- No. 2 白い失透状を呈し黒い土物に良
- No. 3 白生地は白色で落ついた光沢を生じ微細な貫入を生ずる
黒生地はネズミ志野に似た雅趣があり白象嵌等に適す
- No. 4 白生地は乳白色の落ついた光沢
黒生地は朝鮮三島釉に似て抹茶碗等に適す

2, 3 試作並びに指導

〔試作〕

今年度は大素焼2回、本焼2回を行い試作品 145点、サヤ……255点、全蓋……76点を得た。

〔指導、講習会、その他〕

- 三重県四日市市、カク本窯業株式会社の依頼により輸出向大額皿（経40廻）を400枚試作指導を行つた。
- 中小学校12校の楽焼窯に関する指導及び下飯村手打小学校の楽焼焼成の指導と窯の改造並に各種成形技法の指導を行つた。
- 工業技術院名古屋試験所第6部の内藤義兼課長を招聘して県内業者に鑄込用石膏型の講習会が本場で開催され成果を納めた。

受講者延人員 68名